



民法学者。東京府東京市深川区(現、東京都江東区)出身。民法の中でも家族法(親族法、相続法)の研究に業績を示し、「家族法学の父」と称される。東京帝国大学(現、東京大学)では民法の講座を長く担当し、『相続法』、『法学通論』、『新民法読本』など多くの書を著した。また、一般向けの書や『判例百話』などの法学入門書を著し、早くから法文・判決文の口語化を提唱するなど、法律の民衆化、社会化について大きな功績を残した。一方、東宮大夫兼東宮侍従長として皇太子(現、上皇)の傳育にあたり、また、貴族院議員、最高裁判所判事を務めた。父は民法学者の穂積陳重である。

略歴

| | |
|------------------|---------------------------------|
| 明治16(1883)年4月11日 | 東京府東京市深川区に生まれる。 |
| 明治41(1908)年 | 東京帝国大学法科大学を卒業。同大学講師就任 |
| 明治43(1910)年 | 東京帝国大学法科大学助教授就任 |
| 大正元(1912)年10月 | ドイツ、フランス、イギリス、アメリカに留学(大正5年2月まで) |
| 大正5(1916)年9月 | 東京帝国大学法科大学教授に昇任 |
| 大正6(1917)年 | 法学博士授与 |
| 昭和5(1930)年 | 同大学法学部長就任 |
| 昭和12(1937)年 | 帝国学士院(現、日本学士院)会員となる。 |
| 昭和18(1943)年 | 定年で退職。名誉教授 |
| 昭和19(1944)年 | 貴族院議員に勅選される。 |
| 昭和20(1945)年 | 東宮大夫兼東宮侍従長に就任 |
| 昭和24(1949)年 | 最高裁判所判事に就任 |
| 昭和26(1951)年7月29日 | 68歳で永眠 |

(写真提供：穂積重行氏)

〈関連図書〉

- ・穂積重遠『判例百話』 日本評論社 1932年
- ・穂積重遠『離縁状と縁切寺』 日本評論社 1942年
- ・穂積重遠『新訳孟子』 講談社 1980年
- ・穂積重遠『新訳論語』 講談社 1981年
- ・愛媛子どものための伝記刊行会『愛媛子どものための伝記 第9巻 児島惟謙・穂積陳重・重遠・安倍能成』 愛媛県教育会 1985年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 1989年
- ・穂積重遠著、穂積重行編『欧米留学日記(1912~1916年)』 岩波書店 1997年
- ・『県民メモリアルホール 人物探訪第4集』 愛媛県生涯学習センター 2002年

〈主な収蔵資料〉…(P196, 13)